

# 吉田地区



庚申仁王石像

鵜木の田の神と石碑 ▶うのきのたのかみとせきひ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-1】

きれいに化粧を施された、石碑付の田の神



江戸期に造立された石碑と僧型の田の神立像である。

石碑には、享保21(1736)丙辰天「正月吉祥日奉造立田之神敬白 西佐多浦名中庄屋池田仙右エ門 前田喜八作」とあり、隣の

火フクロ石塔には、「宝暦四甲戌年閏二月吉祥日奉寄進講中敬白」とある。宝暦4年は1754年である。

鵜木、桑之丸、舟平3集落共同で行われていた田の神祭りの由来を記す石碑が付けられているのは珍しい。

田の神像は金峰神社の春祭り後に宿替えを行っていたが、現在は西下集会施設に置かれている。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



- 所在地／鹿児島市西佐多町(西下集会施設内)
- 交通／吉田北中学校近く あいばす 鵜木バス停
- 駐車場／無(西下集会施設敷地内に駐車スペース有)

仏智山津友寺跡 ▶ぶっちざんしんゆうじあと

市指定／記念物／史跡

【MAP H-1】

松尾城攻めの最中に没した島津忠治の無念の霊を弔う



室町期、この地は応永20年(1413)福昌寺二世住持竹居正猷大和尚が開山した安寧山了心寺という吉田家10代若狭守清正の菩提寺であった。

その後、島津家12代当主忠治の墓が、島

津曹洞宗三か寺の一つである津友寺に建てられた。西藩野史によれば忠治の母は、豊後(大分)の大友氏の出で、島津の津と大友の友を合わせて津友となったという。忠治の墓は、後に鹿児島の福昌寺に改葬された。

参道に、仁王石像胸部と「正徳六年丙申四月八日」(正徳6年→1716)と刻まれた石燈籠が残っている。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



- 所在地／鹿児島市西佐多町
- 交通／吉田北中学校近く あいばす 吉田中バス停
- 駐車場／無

## 鹿兒島市西佐多町の吉田貝化石層 ▶かごしましにしさたちょうのよしだかいかせきそう

県指定／記念物／天然記念物(地質鉱物)

【MAP G-2】

## アラゴナイトを多く含む貴重な浅海堆積物



吉田貝化石層は、ミンデルーリス間氷期(約30万年～40万年前)の温暖な浅い海(水深20～30m)の堆積物である。

化石は、おもにフジツボの破片からなり、二枚貝、巻貝、サメの歯、カメの甲羅

等が見つかっているが、このような化石構成種は珍しく日本では他に報告されていない。

また、化石層にはアラゴナイト(霰石)の結晶が多く含まれているが、アラゴナイトは不安定鉱物であることから、数十万年を経た貝化石層に残ることはまれで、岩石鉱物学的にみても吉田貝化石層は学術上貴重な存在である。

平成20年(2008)、鹿兒島県の天然記念物(地質鉱物)に指定された。



●所在地／鹿兒島市西佐多町 ●交 通／あいばす 堤水流バス停 ●駐車場／無

## 興化寺跡の五輪塔 ▶こうげじあとのごりんとう

記念物／史跡

【MAP H-1】

## 吉田氏ゆかりの人々の霊を慰める



この辺りは、長禄2年(1458)4月22日明谷和尚によって開山された清秀山興化寺というお寺のあった跡である。

興化寺は、初め吉田美作守清存の菩提のために建てられ、清存の法名了潭をとって

清秀山了潭寺と称していたが、その後、島津家13代当主忠隆の位牌を安置して興化齡岳禅寺と改めたと三国名勝図会にある。

この五輪塔は、昭和59年(1984)7月、竹やぶの土手の辺りに散在していた残欠を整理したものである。その時、吉田氏7代次郎太夫清持、8代伊豆守氏清、9代伊豆守清元その他吉田氏ゆかりの方々の方名の法名が刻まれた地輪を掘り出したので、その霊を慰め、後世に伝えることにした。



●所在地／鹿兒島市西佐多町(興化寺墓地内) ●交 通／旧吉田小学校近く あいばす 吉田麓バス停 ●駐車場／無

## 金峰神社 ▶ きんぼうじんじゃ

有形文化財／建造物

【MAP H-1】

### 明治42年、四つの神社が合祀された



この神社は、大位大明神(オイカンドン)といわれ、王子神社の親神であるという。現在の金峰神社は、提水流にあった大王

神社(デオサア)、高石神社(タケシドン)、西麓にあった小国神社、菅原神社等を合祀したものである。

境内には、秋葉神社奉寄進の天明年間(1781～1789)の年号をもつ石碑などをはじめ、数々の石祠がある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 舟平口バス停 ●駐車場／無

## 前宗の山の神 ▶ まえむねのやまのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-1】

入母屋造の屋根で、石材は溶結凝灰岩である(吉田黒石)。以前は現在地から1kmほど先の山にあったものを移したとのことである。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 前宗上バス停 ●駐車場／無

## 前宗の水神 ▶ まえむねのすいじん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-1】

入母屋造の屋根で、石材は溶結凝灰岩。基壇に「水神」と数名の銘が刻字されている。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 前宗上バス停 ●駐車場／無

## 前宗の馬頭観音石像 ▶まえむねのぼとうかんのんせきざう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-1】

「奉造立 肥岡市右衛門 羽州生智元作 宝永五戌子年九月念一日」(宝永5年→1708)と刻名。高さは120cmで、石材は吉田黒石と呼ばれる溶結凝灰岩と思われる。近くに石塔もある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 前宗上バス停 ●駐車場／無

## 岩吉宅裏の山の神、石燈籠 ▶いわよしたくらのやまのかみ、いしどうろう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-1】

石祠は入母屋造の屋根で、石材はややピンク色をした溶結凝灰岩である。石燈籠は年号等が刻銘された2基がある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 前宗下バス停 宅地裏山 ●駐車場／無

## 前宗の地藏菩薩 ▶まえむねのじざうぼさつ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-1】

高さは47cm、石材は溶結凝灰岩で、上部は欠損している。「宝永三年六月七日」(宝永3年→1706)の刻字がある。裏山から現在地に移転した。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 前宗下バス停 ●駐車場／無

## 古木宅の山の神 ▶こきたくのやまのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-1】

「文政五年三月六日」(文政5年→1822)と刻字のある祠の中には、長さ25cmの鉄の鉾がある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 本宗中バス停 ●駐車場／無

## 供養葉山石室 ▶くようはやませきしつ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-1】

いりもや  
入母屋造の屋根で、石材は溶結凝灰岩。  
正面に「文化八年 奉供養葉山 未二月  
十日」(文化8年→1811)と刻字がある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 本宗中バス停 ●駐車場／無

## 鶴ノ木の馬頭観音と火の神 ▶うのきのばとうかんのんとひのみかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-1】

馬頭観音には「十月十八日」、火の神には人名の刻字があるが、欠損部分が多く、詳しいことは分からない。馬頭観音の高さは84cm、火の神は51cmである。



●所在地／鹿児島市西佐多町(佐多浦分回西部班敷地内) ●交通／あいばす 鶴木バス停 ●駐車場／無

## 西中の古井戸 ▶にしなかのふるいど

記念物／史跡

【MAP G-2】

現在は使用されていないが、今でも水をたたえている。石材は溶結凝灰岩で、長方形の切石を組み合わせたものである。平成5年(1993)の水害では地区民から大変感謝されたという。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 永盛温泉前バス停 ●駐車場／無

## 金峰山権現と二十三夜供養塔 ▶きんぼうざんごんげんとにじゅうさんやくようとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-2】

金峰山権現を祭る石室(御神体石6個)と刻字のある二十三夜供養碑などがある。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 永盛温泉前バス停 ●駐車場／無

## 西中の庚申塔 ▶にしなかのこうしんとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-2】

「奉寄進庚申講中 安永五丙申年」(安永5年→1776)等の刻字があるが、摩滅している。高さは125cm, 幅は55cmである。



●所在地／鹿児島市西佐多町(西中集会施設内) ●交通／あいばす 永盛温泉前バス停 ●駐車場／無

## 溝口の田の神像, 山神石室 ▶みぞぐちのたのかみぞう, やまがみせきしつ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-2】

昔は田の畔にあったといわれる。「宝暦四年」(宝暦4年→1754)の刻字と当時の役人の名が刻まれている。田の神の高さは65cm。持ちものなどはよくわからない。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 堤水流中バス停 ●駐車場／無

## 永田遺跡 ▶ながたいせき

記念物／史跡

【MAP G-2】

西佐多町にある。昭和61年(1986)6月2日～6日に行われた県文化財課の遺跡分布調査で発見された。

思川の支流が前峰から、諸木、溝口を経て東南流し、北東へ流れを変える辺り、舌状に張り出した永田の台地遺跡地である。土師器の散布地となっている。



●所在地／鹿児島市西佐多町 ●交通／あいばす 堤水流バス停 ●駐車場／無

## 東麓の石敢當 ▶ひがしふもとのせっかんとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-1】

もとは1mほど高い場所であったが、現在は道路がかさ上げされている。高さは40cm, 幅は28cmである。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／旧吉田小学校近く あいばす 吉田麓バス停 ●駐車場／無

**五輪塔(オケサドン・伝相良八代実長夫妻の墓)** ▶ごりんとう(おけさどん・でんさがらはちだいながなふさいのほか)

記念物/史跡

[MAP H-1]

「荒神さあー」とか「オケサドン」と呼ばれ、宝篋印塔の紋様は相良八代実長の紋様とされている。高さ140cm、幅60cmのものと高さ136cm、幅50cmのものがある。



●所在地/鹿児島市東佐多町 ●交通/旧吉田小学校近く あいばす 吉田麓バス停 ●駐車場/無

**島津歳久招魂碑** ▶しまづとしひさしょうこんひ

記念物/史跡

[MAP H-2]

島津歳久は、蒲生攻めに始まる大隅合戦の功により吉田城を任された後、祁答院へ移り、竜ヶ水で刃自した。以後、城中城外で怪異の事があり、騒がしくなったので、承応3年(1654)7月に城大手口に建立したものと伝えられている。平成5年(1993)

の水害で鳥居ともども下流に流されていたものを再建し現在に至る。



●所在地/鹿児島市東佐多町 ●交通/あいばす 城内北公民館前バス停 ●駐車場/有

**松尾城跡** ▶まつおじょうあと

記念物/史跡

[MAP H-2]

**切り立った崖に囲まれた要害**



東佐多浦にある山城の跡で、大規模な連郭型式城郭である。「物の見事は吉田の城よ、前は大川後は山」とうたい伝えられ、その安定した姿と朝夕の眺めは歌の文句どおり見事なものである。城まわり一里十四丁五十七間(5558m)、高さ九十間(163m)、周囲は切り立った崖の要害、この山中に小山方面から向門、野村城、向城、本丸、中丸、松尾城、田代城、大手門などの砦を築

いていた。水は大手門附近に池があり、野村城、向城、田代城では険しい崖を下って求める以外は天水を利用していただようである。三国名勝図会に「吉田の本城とあり、吉田氏累代の居城で永正14年(1517)吉田若狭守位清(14代)当城によって興岳公(島津忠隆)と戦い、力尽きて同年2月14日城を献じた。後、永禄5年(1562)島津左衛門歳久吉田に封を受け当城に居る。天正8年(1580)祁答院に移封され、以後藩の直轄となる」と記されている。



●所在地/鹿児島市東佐多町 ●交通/あいばす 城内北公民館前バス停 ●駐車場/無(駐車スペース有)



## 六字名号供養百万遍石塔 ▶ろくじみょうごうくようひゃくまんべんせきとう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-2】

### 松尾城ゆかりの人々が生前に死後の供養を行った



この石塔は、松尾城と一体をなしていた宝勝院跡に所在し、室町期，文明14年（1482）の建立である。

上部が円形で、高さ110cm，幅60cm，厚さ20cmの自然石である。

中央に「南無阿弥陀佛供養百万遍結衆

五十余人願主了因敬白」と刻まれ、その左右に年号と25名ずつの法名が彫られている。城にゆかりのある人々の逆修供養のために作られたものと思われる。

六字名号とは南無阿弥陀仏のことで南無とは、帰依することを意味し、阿弥陀仏に帰依するの意味である。また逆修とは生前にあらかじめ建立し、死後の供養を先に行おうとするものである。

平成17年（2005），鹿児島市の有形民俗文化財（民俗資料）に指定された。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／あいばす 城内北公民館バス停 ●駐車場／無

## 大永期の勧請石碑 ▶だいえいきのかんじょうせきひ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-2】

### 百万遍念仏を唱え、極楽浄土への往生を願った



この石碑は室町期，大永2年（1522）に建てられたもので般昌寺跡にある。

高さ90cm，幅50cmほどの自然石を磨いて、中央上部の月輪の中に梵字を彫り、その下に大きく「南無阿弥陀佛」の名号を刻

んでいる。

その左右に佐多郷の平氏勝重が願主となり33名と百万遍の念仏供養を行い、浄土往生を願うことが述べられている。

三国名勝図会には「佐多浦に阿弥陀堂あり。開基大檀那平氏勝重月峰浄心居士，大永二年壬午三月勧請と石碑に記せり」とある。

平成17年（2005），鹿児島市の有形民俗文化財（民俗資料）に指定された。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／南国 東佐多バス停 ●駐車場／無

## 東下の田の神 ▶ひがしものたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP 1-2】

### きれいに彩色された、地域の人から愛される「タノカンサア」

東下の田の神は、高さ120cmの黒質の凝灰岩の丸彫りに白や赤などの彩色がなされた田の神舞神職型の立像で鎮守神社の境内にある。



頭には大きなコシキのシキを笠のようにかぶり、それが背後に大きく突き出ている。たもとの短い上衣に長袴を着け、右手の杓子はシキの裏にかざし、左手に腕を持ち、今にも踊り出すように見える。

この田の神は、享保21年(1736)造立の

西佐多町鶴木の田の神、元文2年(1737)造立の始良市触田の田の神と造形がよく似ており、同時期のものと推察される。また、鶴木と触田の田の神には前田喜八作とする石碑が付けられていることから、3体ともこの作者によるものと考えられる。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市東佐多町(鎮守神社内) ●交通／あいばす 吉田東バス停 ●駐車場／無

## 弘治期の十三仏設斎碑 ▶こうじきのじゅうさんぶつせつさいひ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP 1-2】

### 思川改修工事のとき、観音川原から移設された

この石碑は、高さ90cm、幅70cm、厚さ20cmで、弘治3年(1557)に建立されたものである。

初七日から三十三回忌までの故人の法事に本尊とされる十三仏を信仰するものである。

十三仏とは、不動明王(初七日)、釈迦如来(二七日)、文殊菩薩(三七日)、普賢菩薩(四七日)、地藏菩薩(五七日)、弥勒菩薩(六七日)、薬師如来(七七日)、観音菩薩(百か日)、勢至菩薩(一周忌)、阿弥陀如来(三回忌)、阿闍如来(七回忌)、大日如来(十三回忌)、虚空蔵菩薩(三十三回忌)である。

室町期、吉田地域に十三仏信仰があったことを証する資料である。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／あいばす 吉田東バス停 ●駐車場／無

## エビス様社と石像 ▶えびささまやしるとせきぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-2】

野町の本尊で、明治32年(1899)の洪水後に現在地に移されたものである。社の中には、エビス様の面、置き物、石像2体、木像2体、円礫2つが安置されている。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／あいばす 城内南バス停 ●駐車場／無

## 東下の馬頭観音石碑 ▶ひがしものとばとうかんのんせきひ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP I-2】

祠の脇にある燈籠に碑文がある。古老の話によると元々は高牧にあった馬頭観音を現在地に移したそうである。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／あいばす 吉田東バス停 ●駐車場／無

## 触田堰碑 ▶ふれたせきひ

記念物／史跡

【MAP I-2】

石祠の中には、御影石で作られた板碑(山神・水神・地神)が納められている。「文久元年辛酉五月」(文久元年→1861)や「巻返石井手成」などの刻字がある。



●所在地／鹿児島市東佐多町 ●交通／あいばす 吉田東バス停 ●駐車場／無

## 阿弥陀三尊石像(庚申待碑) ▶あみださんぞんせきぞう(こうしんまちひ)

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-2】

「奉供養庚申待」の刻字のある石碑は高さ2m、幅は70cmあり、上部に阿弥陀三尊梵字、中央に仏像、両側に碑文の刻字がある。



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／あいばす 宇都谷入口バス停 ●駐車場／無

## 桐野利秋田盧跡と田盧碑 ▶きりのとしあきでんろあととでんろひ

市指定／記念物／史跡

【MAP G-2】

### 桐野利秋が開墾に励んだ宇都谷の小屋



その時に住んだ小屋跡とその地に建立された碑である。その間、天下の志士たちも次々に訪れ、佐賀の乱の落人たちも保護している。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。

明治6年(1873)、征韓論に破れた西郷に従って薩摩に帰った桐野利秋は、幼い頃世話になった山下孫兵衛を頼って宇都谷に来て、小屋に住み、開墾に励み、水田4反余(40a)、陸田(畠)5反余(50a)を開墾して日を過ごした。



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／あいばす 宇都谷上バス停 ●駐車場／無

## 庚申仁王石像 ▶こうしんにおうせきぞう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-3】

### 土地の産土神に息災安寧を祈り建立された



1.7m、重さ約3.5tの巨大なもので、背に「延宝七年己未、二月十三日奉造立供養庚申待結衆敬白」と刻まれている。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。

花尾神社には、入母屋造の屋根で石室の中に仏像と思われるものがある石祠や入母屋造の屋根で、正面に「安永八年」(安永8年→1779)とある水神もある。

花尾神社拝殿入口の2基一対の仁王石像は、江戸期、延宝7年(1679)土地の庚申講の人たちが建立したものである。

向かって右手南側は、口を大きく開いた阿形像で、顔面は厳しくにらみつけ、腕は筋骨隆々としている。高さ2.2m、胸囲



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／あいばす 吉田支所前バス停 ●駐車場／無(花尾神社下に駐車スペースあり)

## 下坊上山の五輪塔 ▶しもんぼううえやまのgorintou

記念物／史跡

【MAP H-3】

本城谷ノ口、旧下坊屋敷裏の阿弥陀薬師堂の庭に古石塔2基(平安時代の末期)が建っている。三国名勝図会に鎮西八郎為朝夫婦の墓と伝えられている。また為朝が自身でこの石碑を建てて、その後南島に渡海したともいわれている。吉田と為朝との関係は、古書によれば、為朝の次男源为重は、執印行賢から吉田を譲られ、後、女孫の息長清道に譲り与えたという。



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／吉田支所近く あいばす 野元商店前バス停 ●駐車場／無

## 涼松 ▶すずまつ

記念物／史跡

【MAP G-2】

西佐多浦より本城に通ずる里道と旧郡山街道との交差点を涼松という。昔は茶店などもあった。また当地は西南戦争の戦場となった場所でもある。



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／吉田文化体育センター近く あいばす 発電所前バス停  
●駐車場／無(吉田総合運動公園内駐車場に駐車可能)

## 越後どん墓、石燈籠 ▶えちごどんはか、いしどうろう

記念物／史跡

【MAP G-2】

無縫塔(卵塔)は、越後どん墓と伝承される。寄進燈籠には蒲生町と縁のある刻字が多く、天保13年(1842)の寄進碑と天明3年(1783)、慶應元年(1865)の石燈籠がある。



●所在地／鹿児島市本城町 ●交通／吉田文化体育センター近く あいばす 発電所前バス停  
●駐車場／有(吉田総合運動公園内駐車場)

## 早馬神社跡寄進碑と石祠 ▶はやまじんじゃあときしんひとせきし

記念物／史跡

【MAP G-2】

明治12年(1879)の寄進碑と正徳3年(1713)の銘のある石祠である。寄進碑の高さは128cm、幅は上部で20cm、下部は約60cmである。



- 所在地／鹿児島市本城町
- 交通／吉田文化体育センター近く あいばす 発電所前バス停
- 駐車場／有(吉田総合運動公園内駐車場)

## 千人仏遺跡供養板碑 ▶せんになんぼとけいせきくよういたび

記念物／史跡

【MAP G-3】

板碑が2基で、共に刻字がある。戦死者1000人の霊を合祀した石碑と伝えられている。高さ52cm、幅28cmのものと高さ50cm、幅31cmのものがある。



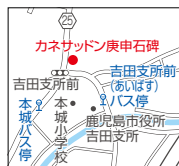
- 所在地／鹿児島市本城町(長牟礼涼松林道上)
- 交通／ゴールデンパームカントリークラブ鹿児島吉田近く
- 駐車場／無

## カネサットン庚申石碑 ▶かねさっどんこうしんせきひ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-3】

高さ3m近い、自然石である。傾いた状態で立っている。正面上位に丸の彫り込みを施し、中央に梵字と思われる刻字があるが摩滅し判読できない。両脇にも梵字と文字が刻字されているが判読できない。傍らには五輪塔の残欠も見られる。



- 所在地／鹿児島市本城町
- 交通／本城小学校近く 南国 本城バス停
- 駐車場／無

## 花立の五輪塔群 ▶はなたてのごりんとうぐん

記念物／史跡

【MAP H-3】

カネサットン庚申石碑のある丘の頂上部に一際目立つ杉の木が立っており、その根元に溶結凝灰岩製の五輪塔が5基ある。刻字などはない。



- 所在地／鹿児島市本城町
- 交通／本城小学校近く 南国 本城バス停
- 駐車場／無

## 谷下の田の神, 阿弥陀堂 ▶たにしたのたのかみ, あみだどう

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP H-3】

田の神舞神職型と思われる田の神立像は頭部を補修してあり、足の部分は欠損している。高さは45cmで大きなコシキのシキをかぶり、右手に持つ杓子は額の上面にのせて、左手には椀を持つ。



●所在地 / 鹿児島市本城町 ●交通 / あいばす 野元商店前バス停 ●駐車場 / 無

## 荒毛の田の神, 地蔵 ▶あらげのたのかみ, じぞう

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP H-3】

以前は道路脇にあったが、平成5年(1993)に現在地に移された。

地蔵は木製で風化している。田の神は高さ65cmで石材は溶結凝灰岩である。左手首は欠損しており、右手もすりこぎをもっていたと思われるが、一部欠損している。



●所在地 / 鹿児島市本城町(本城校区公民館敷地内) ●交通 / あいばす 野間下バス停 ●駐車場 / 無(本城校区公民館敷地内に駐車スペース有)

## 袈裟どん寺師無縫塔, 宝篋印塔 ▶けさどんてらしむほうとう, ほうきょういんとう

記念物 / 史跡

【MAP H-3】

高速道路の建設に伴って、昭和46年(1971)に現在地に移った。宝篋印塔1基、無縫塔4基、墓壇の残欠1基がある。いずれも刻字はない。「ケサどん」と呼ばれ、終戦までは例祭12月1日の日没から夜明けまで読経が続けられた。



●所在地 / 鹿児島市本城町 ●交通 / あいばす 荒毛バス停 ●駐車場 / 無

## 有満金右エ門奉寄進塔 ▶ありみつかねうえもんほうきんしんとう

記念物 / 史跡

【MAP H-3】

高さ80cm, 幅40cm, 奥行32cm。自然石を加工したもので、正面に刻字がある。水田の耕地整理に伴う記念碑と思われる。



●所在地 / 鹿児島市本城町 ●交通 / あいばす 内門バス停 ●駐車場 / 無

## 八幡神社本殿 附宮殿，宮殿敷板 1枚 棟札14枚

▶はちまんじんじゃほんでん つけたりぐうでん，ぐうでんしきいた1まい むなふだ14まい

県指定／有形文化財／建造物

【MAP G-3】

### 自害した吉田清存の霊を祭るために建立された

元禄5年(1692)建立の本殿は，入母屋造の屋根をかけ，前床をもつ形態は薩摩藩特有のもので，造形が美しい。

八幡神社の祭神は，最初吉田美作守清存みまさかのかみが祭られ，吉田権現と称され，その後応神おうじん天皇・神功皇后・玉依姫・仁徳天皇を祭り，若宮八幡と名称を変えた。

本殿に納められた宮殿は，天文5年(1536)に造られ，九州唯一の「隅木入春日造」(正面の屋根下に斜めの隅木がある春日造)で，いずれも当初の形態をよく留めている。

建立年代，屋根の葺き替え時期，その背

景等の分かる宮殿敷板 1枚と棟札14枚も貴重である。

平成17年(2005)，鹿児島県の有形文化財(建造物)に指定された。

なお，八幡神社入口には，背面に「奉寄進 施主盛應上人 萬治貳年十月吉日」(万治2年→1659)と刻字された仁王像がある。盛應上人は如意山東光寺宝勝院の13世である。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／本名小学校近く あいばす 本吉田バス停 ●駐車場／有



## 本名八幡の庚申石幢 ▶ほんみょうはちまんのこうしんせきどう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

[MAP G-3]

### 身を慎み一晩中眠らずに、「三戸の厄」を避けた



本名八幡神社の大鳥居脇に室町時代、天文13年(1544)に建てられた高さ140cmの八角柱の石幢(経文を刻んだ石塔)で、石製の仏がここに居られるということを表すための意味をあらわす「旗ほこ」「のぼり旗」

である。

本吉田の里には深く仏教を信仰する人達が住んでいて、その人達が健康でよく働き、祖先の御霊を供養するためにこれを建てたことや、庚申講の人達は50余名であったことなどが石幢に刻まれている。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市本名町(本名小学校内) ●交通／本名小学校近く あいばす 本吉田バス停 ●駐車場／無

## 寺前の五輪塔と宝塔 ▶てらまえのごりんとうとほうとう

市指定／記念物／史跡

[MAP G-3]

### 風雪に耐え、清存の霊を慰めつづける



五輪塔、宝塔、宝篋印塔など十数基が、本名八幡神社駐車場の入口付近にある。

五輪塔は三国名勝図会によると、文和元年(1352)自害した吉田美作守清存の霊塔と伝えられている。清存は兄弟仲が悪く、

兄が弟清存を殺そうと謀ったので、思い余って清存は自害したといわれる。この土地の人たちは、清存の御霊を吉田権現として崇め、それが若宮八幡の起りであるとされている。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／本名小学校近く あいばす 本吉田バス停 ●駐車場／有(八幡神社駐車場)

## 都迫の念仏かくれ窟 ▶どんざこのねんぶつかくれくつ

市指定／記念物／史跡

【MAP F-3】

### 厳しい役人の目を逃れて信仰を続けた



薩摩の厳しい念仏弾圧に耐え、浄土真宗を伝える場として作られた洞窟で、その信心の堅さと禁教の厳しさを知る上での貴重な史跡である。

崖崩れに合う以前は、入口が壁の中間

にあってその所在は分かりにくくなっていた。

内部は、くの字に曲がり、上向きの空気抜き穴もあり、奥には約397cm×206cmの小部屋が設けられている。

平成17年（2005）、鹿児島市の記念物（史跡）に指定された。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／あいばす 都迫バス停 ●駐車場／無

## 都迫の庚申碑 ▶どんざこのこうしんひ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-3】

稲荷神社境内の正面に「寛文拾一辛年主取衆 □兵衛源藏 奉供養庚申講衆」(寛文11年→1671)とある。



●所在地／鹿児島市本名町(稲荷神社内) ●交通／あいばす 上河内入口バス停 ●駐車場／無(稲荷神社内に駐車スペース有)

## 稲荷神社の仁王像 ▶いなりじんじやのにおうぞう

記念物／史跡

【MAP F-3】

高さ190cmと背の低い仁王像で、2体とも刻字はない。



●所在地／鹿児島市本名町(稲荷神社内) ●交通／あいばす 上河内入口バス停 ●駐車場／無(稲荷神社内に駐車スペース有)

## 都迫の三重石塔 ▶どんごのさんじゅうせきとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-3】

## 宮之浦のものと同時期の庚申塔と推定される

石塔の表面は、かなり風化して傷み、だが、いつ、何のために建てたのかははっきりしない。言い伝えによると「ガラツパどんの墓」といわれている。

すぐそばの石碑に「元禄二年」(元禄2年→1689)と刻んであり、これと関係があるとすれば、宮之浦町宮西の三重石塔より古く、庚申石塔ではないかと考えられる。

石塔は、道路向かい側にあったものを

道路工事のため現在地に移転したものである。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交 通／あいばす 都迫バス停 ●駐車場／無

## 小岡どんの石室，馬頭観音，田の神 ▶こおかどんのせきしつ，ばとうかんのん，たのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-4】

「奉寄進 嘉永三年戊四月三日」(嘉永3年→1850)と刻字がある石室や自然石に「馬頭観音 村中守神碑 昭和二十九年二月十九日」(昭和29年→1954)の刻字がある馬頭観音がある。

また田の神は、袴を着けた神職型で、袴背面には「石下谷御中 寛政十一年末三月三日」(寛政11年→1799)と刻字がある。高

さは77cmである。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交 通／あいばす 大原中バス停 ●駐車場／無

## 内之原の馬頭観音，石燈籠 ▶うちのはらのばとうかんのん，いしどうろう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-4】

二刀を持ち牛にまたがった馬頭観音である。下部が欠損しているため、下の刻字は確認できない。

石燈籠は、「奉寄進 元治二年二月二十二日」(元治2年→1865)のものと「明治十年□□三月」(明治10年→1877)のものがある。



●所在地／鹿児島市本名町(内之原集会施設内) ●交 通／あいばす 風穴バス停 ●駐車場／無

## 大原遺跡 ▶ おおはらいせき

記念物／史跡

【MAP G-4】

遺跡地は、吉田南中学校校庭の南部に残存した丘陵である。昭和27・28年(1952・1953)に発掘調査が行われ、縄文時代早期前葉の吉田式土器や石坂式土器、三角柱状の丹塗<sup>とぬり</sup>りした石器と黒曜石製のスクレーパーが出土している。吉田式土器は、本遺

跡で初めて発見されたことから町名をとって型式名としたものである。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／あいばす 南中学校前バス停 ●駐車場／有(吉田南中学校内)

## なぞの神様(塚どん) ▶ なぞのかみさま(つかどん)

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-4】

高さ約140cmの自然石板碑である。中央に梵字<sup>ぼんじ</sup>のあとがみえるが、判読できない。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／あいばす 大原中バス停 ●駐車場／無

## 後本の虚空蔵菩薩 ▶ うしろものこのくうぞうぼさつ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-3】

木造の祠の中に石像と木像が1体ずつ安置されている。周囲には、五輪塔の宝珠が7個ほどみられる。昭和10年(1935)4月13日竣工の改築記念碑や「昭和十六年二月十一日」(昭和16年→1941)刻字の支那事变従軍記念碑が建立されている。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／南国 後中バス停 ●駐車場／無

## どんもと五輪塔群 ▶ どんもとごりんとうぐん

記念物／史跡

【MAP G-3】

昔は、水が出て集落の人々の水汲場<sup>みぎくみば</sup>であった所に、付近から出た五輪塔の残欠を復元した。



●所在地／鹿児島市本名町 ●交通／あいばす 二本松バス停 ●駐車場／無

大口筋 白銀坂 龍門司坂 ▶おおくちすじ しらかねざか たつもんじざか

国指定／記念物／史跡

【MAP J-4】

## 険しい石畳の山道が続く薩摩藩の主要街道

大口筋（薩摩街道）は、江戸期の薩摩藩の主要街道の1つで、もともと小倉筋（西目筋）と東目筋に分けられていたのが、寛永年間（1624～1644）に名称が改められ小倉筋は出水筋・大口筋に、東目筋は高岡筋（日向筋）となった。

大口筋は、鹿児島城下から吉田・始良・加治木・溝辺・横川・栗野・菱刈を経て大口に至る道である。途中の山道には石畳が敷かれ整備された。

白銀坂は、鹿児島市と始良市にある峠で険しい山道で街道一の難所であった。かつては、薩摩と大隅の国境に位置しており、

重要な街道としての面影をよく留め、急坂部に約1.5kmにわたり山中から調達した安山岩質の割石を用いた石畳がよく残っている。

このように薩摩藩の主要街道である大口筋のうち、保存状態が良好な白銀坂約2.8kmと龍門司坂約0.5kmは、わが国の近世の交通を考える上で貴重である。

平成18年（2006）、国の記念物（史跡）に指定された。



- 所在地／鹿児島市宮之浦町
- 交通／白銀坂ゴルフ練習場を左手に見ながら、案内板に従い坂を登る
- 駐車場／無（駐車スペース有）

## 東目筋(日向筋) ▶ひがしめすじ(ひゅうがすじ)

記念物／史跡

【MAP 1-5】

東目筋は西目筋と並ぶ薩摩藩の幹線道路で大隅路ともいわれ、城下からの目的地によって日向筋と呼ばれることもあった。

吉田地区では、牟礼谷川に架かる岩木橋に始まり、関屋谷から鳥居原(牧口)、牧(牟礼岡団地入口付近)、三里塚(鳥津の森入口付近)、芝元(鳥津ゴルフ場入口)を経て白銀坂(始良市)へと続いていた。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 関屋口バス停 ●駐車場／無

## 牟礼谷の牧神 ▶むれだにのまきがみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP 1-5】

牟礼ヶ岡(宮之浦町)の頂上に石の祠ほこらがある。これは放牧の盛んであった吉野牧の牛馬の守り神(牧神)としてつくられたものとして考えられている。石の祠ほこらには、「貞享二年三月十五日」(貞享2年→1685年)と刻まれている。

また、そのそばには大きな岩がそびえており、昔から信仰の対象になっていた。こ

れは原始時代の巨岩信仰と関係があるのではないかと伝えられている。



●所在地／鹿児島市宮之浦町(牟礼ヶ岡 ウインドファーム内) ●交通／県道220号線(寺山公園線)入口または鳥津の森側入口より、牟礼岡自然遊歩道を通り、牟礼ヶ岡ウインドファームへ ●駐車場／無

## 鬼子母神社の石祠・石燈籠・馬頭観音 ▶きしぼじんじやのせきし・いしどうろう・ばとうかんのん

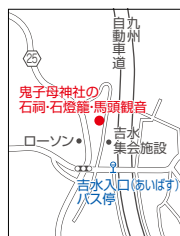
有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-4】

石祠は左右一対であるが、左の石祠は、室部が紛失している。基壇きだんは正面と左側面に寄進者の名が刻字されている。

石燈籠の竿部には「元禄六酉年三月吉日仲善」(元禄6年→1693)と刻字がある。火袋は風化が著しい。

馬頭観音は、馬上刀交差像で、背面に「奉造立 天保六乙未 七月吉日」(天保6年→1835)の刻字がある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町(鬼子母神社内) ●交通／鹿児島県自治研修センター近く あいばす 吉水入口バス停 ●駐車場／無

## 宮之浦の三重石塔 ▶みやのうらのさんじゅうせきとう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-5】

## 庚申塔と推定されるが、「ガラッパドンの墓」とも…



「寛文十三年丑吉日奉供養講衆四十六人」(寛文13年→1673)と刻まれているが、風化して判断しがたい。高さは250cmである。

当時の庶民信仰であった庚申講の人々が

立てた供養塔であると推定される。

各層四方表面には梵字も刻まれている。一説によると、毎年の水害をのがれるために供養したといわれ、俗称「ガラッパドンの墓」と呼ばれる。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／吉田インター近く あいばす 宮之浦神社バス停 ●駐車場／無

## 吉水の阿弥陀像，田の神 ▶よしみずのあみだそう，たのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-4】

木造りの社の中に、田の神石像と彫りの浅い地藏菩薩像が祭られている。田の神は高さ50cmで、田の神舞神職型と思われる。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／鹿児島県自治研修センター近く あいばす 吉水中バス停 ●駐車場／無

## 吉水水源地の二十三夜待塔，石祠，仏像 ▶よしみずすいげんちのにじゅうさんやまちとう，せきし，ぶつぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-4】

宿待二十三夜碑，供養石殿，首のとれた仏像，供養碑の傍らに水道記念碑がある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町(吉水川谷水源) ●交通／鹿児島県自治研修センター近く あいばす 吉水水源前バス停 ●駐車場／無

## 中原遺跡 ▶なかはらいせき

記念物／史跡

【MAP H-4】

遺跡は宮之浦町中原を中心として広がる台地である。精木川の支流がさらに二つに分かれ、つくった谷に挟まれた台地である。成川式土器、土師器、黒曜石の散布地である。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 吉水上バス停 ●駐車場／無

## 外戸口跡 ▶けどくちあと

記念物／史跡

【MAP I-5】

薩摩藩吉野牧の木戸があった所と思われる。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 関屋口バス停 ●駐車場／無

## 倉谷の馬頭観音 ▶くらたにのぼとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-4】

いりもや せきし  
入母屋造の屋根で、石祠の中には、牛にまたがった早馬殿の石像が安置してある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町(倉谷公民館敷地内) ●交通／あいばす 倉谷公民館前バス停 ●駐車場／無

## 倉谷の山神石祠・奉寄進塔 ▶くらたにのやまがみせきし・ほうきしんとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP H-5】

「オネツの神様」と言われ、お参りする人は火吹き竹を奉納した。両脇に寄進燈籠がある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 倉谷中バス停 ●駐車場／無



## 大山津見神 ▶おおよまつみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP I-5】

石材は、ややピンク色を呈した<sup>ようけつぎょかい</sup>溶結凝灰岩で、建立年月日などの刻字はない。



●所在地／鹿児島市宮之浦町(牟礼岡自然歩道内) ●交通／島津の森側入口より遊歩道を上ったところ ●駐車場／無

## 知識兼雄の墓 ▶ちしきかねおのはか

記念物／史跡

【MAP I-5】

明治4年(1871)、鹿児島県で最初に本格的に酪農をはじめた知識兼雄の墓である。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 牟礼岡地東バス停 牧集会施設近く ●駐車場／無

## 牟礼谷の馬頭観音、火の神、宮之浦の二十三夜待石祠

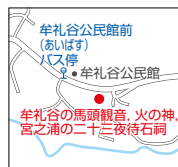
▶むれだにのぼとうかんのん、ひのかみ みやのうらのにじゅうさんやまちせきし

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP I-5】

石祠は、入母屋造の屋根で、御神体は自然石である。側面には刻字があるが、磨滅し判読できない。石祠の両脇にある自然石2体は火の神である。

また、二十三夜待石祠は入母屋造の屋根で、祠の中には、石像がある。正面に「奉寄進 宝暦六年十月廿日」(宝暦6年→1756)と刻字がある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 牟礼谷公民館前バス停 ●駐車場／無

## 関屋谷の岩木橋 ▶せきやたにのいわきばし

記念物／史跡

【MAP I-5】

毛利直正著、大石兵六夢物語の兵六が赤ガニに足をはさまれた所である。三国名勝図会にも記載がある。



●所在地／鹿児島市宮之浦町 ●交通／あいばす 関屋口バス停 ●駐車場／無

## 外城制度

外城とは「とじょう」と読む。薩摩藩独自の領国支配の単位で、内城に対する外衛の支城を意味する。領内の各地に支城を置いて守備した拠点であるといえよう。

本城の鹿児島(鶴丸)城は、一般の城郭ではなく屋形造りの居館で、その精神は「城を以って守りとなさず、人を以って守りとなす」という考えによるもので、領内三州(薩摩、大隅、日向)の各地に置かれた外城制度と深い関係がある。

外城制度の成立年代は、天正年間(1573～1592年)であったと推定される。上井兼兼日記の天正12年(1584)正月26日条に、外城衆と記されている。しかし、元和元年(1615)閏6月13日に幕府が出した一國一城令に基づき、薩摩藩主の居城である鹿児島(鶴丸)城のみを残し、領国内の他の城をすべて破却した。実質的には外城の中核としての城が破却された後も制度として外城が存続したが、外城は制度上の呼称でしかなくなっていた。

薩摩51郷、大隅42郷、日向20郷の計113郷を外城として外敵の防御に当たらせた。そこに地頭仮屋(地頭館)・領主仮屋を設けて行政の役所にあて、その周囲に籠という郷士集落を作って軍事、行政を管轄する仕組みであった。

薩摩藩は武士の数が多く、武士人口を扶持するために郷士制度という家臣団の屯田制度を施行したと考えられる。薩摩藩の外城は二種類に大別され、地頭の支配する地頭所と藩の重臣の支配する私領(一所持)があった。

私領は薩摩13所、大隅7所、日向1所の計21所で、その他はすべて藩直轄の地頭所であった。

寛永年間(1624～1644年)以降、地頭は遙任となり、私領主も地頭もすべて鹿児島定府となった。

地頭所において、郷に住んで実際の政治にあたったのは、所三役といわれる次のような役職であった。

### 頭(あつかい)

数名が任せられ、郷内全般の政務を総覧した。天明3年(1783)に郷士年寄と改称。慶応元年(1865)再び旧称にかえった。

### 組頭(くみがしら)

郷内の土を数組に分けて、その頭役として、郷士の教導や外城警備にあたった。

### 横目(よこめ)

数名で編成し、諸務をとりつき検査や訴訟のことなどを任とした。

役職には外城士の中から任命された。外城士を初め外城衆と呼んだ。安永9年(1780)に外城郷士と呼ぶようになり、天明3年(1783)に郷士と改められた。

幕末の郷を示すと表のとおりである。明治2年には岩川郷が加わる。なお琉球国(沖縄・奄美)については外城制度から除かれていた。

薩摩藩の外城

郡名	地頭所	一所(私領)
鹿児島郡	吉田	
日置郡	伊集院 市来 郡山 串木野	永吉 吉利 日置
薩摩郡	百次 隈之城 高江 山田 樋脇	平佐 入来
	中郷 東郷	
高城郡	水引 高城	
出水郡	阿久根 野田 高尾野 出水 長島	
伊佐郡	大口 山野 羽月 鶴田 山崎	佐志 富之城 黒木 蘭牟田
谷山郡	谷山	
給黎郡		喜入 知覧
掛宿郡	指宿 山川	今和泉
頭娃郡	頭娃	
川辺郡	川辺 山田 坊治 久志秋目 加世田	鹿籠
阿多郡	阿田 田布施 伊作	
鹿島郡	鹿島	
以上薩摩国	計 38 所	計 13 所
曾於郡	国分 清水 曾於郡 敷根 福山	市成
財部	末吉 恒吉	
給良郡	帖佐 蒲生 山田 溝辺	加治木 重富
桑原郡	日当山 錦 横川 栗野 吉松	
菱刈郡	本城 曾木 湯之尾 馬越	
大隅郡	桜島 牛根 小根占 大根占 田代	垂水
肝属郡	百引 高隈 鹿屋 串良 高山	新城 花岡
	始良 大始良 内之浦	
熊毛郡		種子島
以上大隅国	計 35 所	計 7 所
諸県郡	吉田 馬間田 加久藤 飯野 小林 須木 野尻 綾 高岡 倉岡 穂佐 高原 高崎 高城 山之口 勝岡 松山 大崎 志布志	都城
以上日向国	計 19 所	計 1 所

(鹿児島県 1980『鹿児島県史 第二巻』より引用)